

恵泉女学園 大学報

Keisen University
2009.11

卒業式・学位授与式 (9月24日:チャペルにて)



① 学園ニュース

- ・ 学内で活躍する学生たち
- ・ 表紙の写真

② レポート

- ・ 協定留学生紹介
- ・ クラブ紹介

③ レポート

- ・ カンボジアFS報告
- ・ イタリア語学文化研修報告

④ 行事報告

- ・ インターンシップ
- ・ 収穫感謝礼拝

⑤ 恵泉トピックス

- ・ チャペルアワー

人文学を通して 「生きる力」を身につける

恵泉女学園大学の学園祭、多摩フェスティバルが11月7日と8日に開かれます。これは学生たちが授業や課外活動を通じて学んだものや身につけたものを来訪者と共有する、学生主催の学園祭です。同時に、恵泉女学園大学の創立記念日である11月3日に近い週末を選んで、学園創立時に目指したものを振り返り、学園の理念をあらためて意識する日でもあります。恵泉女学園は本年創立80周年を迎えますが、その創立者の河井道は「汝の光を輝かせ」と語りました。ひとりひとりが持っている豊かな心を育て、能力を開発して、さまざまな分野で活躍できる女性を育てたいと願ったのです。

人文学部ではどのように能力を発展させるのでしょうか。人文学とは人間の持つ人間らしさについての学問です。文学、言語学、哲学、宗教学、歴史学、美学、美術史などさまざまな分野に分かれています。その根本にあるものは「人間とは何か」「人間らしさとはどういうことか」という問いかけです。このような問いかけを通して、本当の意味での教養を身につけ、深く考える力を養うことができます。そんな人文学を通して身につけたものがどのよ

うな役に立つのか、すぐには効果が見えてこないかもしれません。しかし従来の知識では答えが出ないような新しい課題に直面したときや、難しい局面を切り開くときには、このような文化の力、教養を基礎として考える力が必要になるのです。

古代中国の「六韜^{りくとう}」という書物には人を知るための8つの方法が書いてありますが、その中に「難しい問いに対する分析力を見る」「窮地に追い詰められたときの変化や反応を見る」「難しい課題に取り組むときの意志の強さや気力を見る」ということがあります。急速に変わりつつある時代、別の言い方をすれば先の見えない時代にはこうした能力が必要だったでしょう。2千年以上後の現代でもその必要性は変わっていません。私自身これを読んだときに、自分はどうかと自問しました。大学で磨き、身につける力の中にはこのような基本的な「生きる力」が含まれているのです。

ひとりひとりが持つ個性とそれぞれの「光」を輝かせることを目指すこの大学を、皆様が支えてくださるよう、お願いいたします。



人文学部長

梅澤ふみ子

多摩フェスティバル

11月7日(土)・8日(日)

学内で活躍する学生

大学生といえば“アルバイト”というように、今はほとんどの学生がアルバイトをしています。大学のキャンパス内でも仕事をしている学生がいることをご存知ですか。

現在、図書館でアルバイトをしている学生に、仕事の内容や楽しさなどを聞きました。3人とも日本語日本文化学科の3年生です。

山中和佳子さんは半年ほど前に、図書館でアルバイトをしてみたいと思い、職員に声をかけたそうです。遠田千晶さんはたまたま図書館内に掲示していた募集のチラシを見て応募、始めてから1年になります。並木由佳さんは入学した時からやってみたかったので1年の時に応募し、もう2年近く続けています。

現在、図書館では7人のアルバイト学生が週1〜2回仕事をしています。おもな仕事はまずカウンター内で図書の貸出、配架(所定の位置に本を戻すこと)、パソコンの貸出、図書の場所を教えるなど、直接利用者との対応の仕事が中心です。あとは返却本のチェック。

・**大変だなと思ったことは?**の質問に少し考えてから、試験前に図書が見つからなくて困っている学生の対応、先生が大量の本の貸し出しをされる時、との答えでした。また、**困ることは?**の質問には3人揃って即答で「落書きです。」返却本をチェックして落書きを発見すると「一生懸命消します。」とのこと。一部の人の行為だと思いますが、消している人がいることを忘れないようにしましょう。

・**やっていて良かったこと。**もともと本が好きで、図書館の仕事に興味があった皆さんでしたが、このアルバイトをして良かったと思うことがあるようです。

「いろんなジャンルの本が読める(気づく?)こと。普段は自分の関心のない分野の本が返却された時に、チェックのために中を見たら興味を惹かれ、思わず少し読んでしまったりで、読書の幅が広がった感じがします。」遠田さん

「この仕事をして役立ったのは、自分の試験のときに図書の分類や場所がすぐわかること。他の図書館を利用するときに、司書の方に質問がしやすい、どんな質問をすればよいかかわかる」並木さん

「同じ学生同士でも、お礼を言われたりすると役に立てたと思うととても嬉しいです。」山中さん

・**学生みなさんへ伝えたいこと。**

図書館を身近な場所として欲しい。特に「本のリクエストができることを知らないのかもしれない。是非利用して欲しいです。」とのことでした。

主任司書の宮崎さんに図書のリクエストについて聞くと、担当の先生のサインがあるものや、授業で使う本を優先してリクエストに応えるようにしているとのことでした。

5限目にJ棟の情報・AV自習室を利用したことのある人は、学生証の受け渡しや簡単な質問に答えてくれた「SA」の名札をつけた学生に気づきましたか? このアルバイト学生はスチューデントアシスタント(SA)として利用者の受付、質問、教材利用の補助などを行っています。大塚杏菜さん

(文化学科4年)は、1年の時にクラブの先輩から誘われて友人と一緒に応募し、週1〜2回担当しています。通常は比較的ゆつくりしたペースで受付や補助の仕事していますが、試験前は混みあって大変とのこと。

大木悠さん(文化学科3年)は、授業後にすぐ入れるので、時間的に学内のアルバイトはとても助かるというのが続いている理由です。

中一有里絵さん(文化学科2年)も先輩から話を聞いてパソコンの知識をつけたいと思ったのがきっかけとのこと。

このアルバイトをして良かったこと、楽しいことは?に3人が共通して答えたことは、「自分のパソコンの勉強にもなるし、人との対応の仕方の勉強になる。」ということ。さらに「とても楽しい仕事なので、後輩にも伝えたい」と話してくれました。

SAの採用には基本操作ができるかどうか簡単な試験があります。

図書館、情報・AV自習室でアルバイトをしている学生に話を聞いていると、やっていて楽しいことや何が良かったか、の答えに共通しているのは“所属の違う学科や学年の人と知り合ったこと、アルバイトの仲間ができたこと”でした。本当は大変なこと、辞めようかなと思ったこともあったと思いますが、それ以上に得るのが大きいので、皆さん楽しく続けているのでしょうか。



キャンパス内で学生がアルバイトをしている場は、まだ他にもあります。園芸アルバイトは登録制で、現在150人近くが登録しています。野菜の収穫調整、出荷の補助、収穫量の測定、清掃、農具の整理、除草、授業で使うための種まきなどが主な仕事。またweb履修登録時の補助、履修に関する相談、健康診断の補助などを行うのもアルバイトの学生です。オープンキャンパスでCA(Campus Attendant)と呼ばれる先輩学生は、キャンパスや農場の案内、学科の相談などを担当し、ブログ、大学の広報活動への協力なども行なっています。(学事センター)



チンゲンサイの間引き



表紙の写真 9月卒業式・学位授与式

9月24日(木)に、チャペルにて9月卒業式及び学位授与式が行なわれ、学部卒業生17名と大学院修士4名に、木村利人学長から証書が授与されました。学長の式辞では、聖書(テサロニケの信徒への手紙1 第5章)から「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」ということばが送られました。式後はラウンジにて、宗雪雅幸理事長、松下俱子学園長をはじめ多数の教職員が集まり、卒業生と保証人を囲んだ茶話会が開かれました。



茶話会にて

<< Report

協定留学生 ～半年を過ぎて～

新羅大学校 鄭地恩 (Jung Ji Eun)

初めての日本の授業は確実に母国とは違うことだった。特に印象に残ったことはやはり生活園芸の授業だった。日常の中でも土に触れることは全くなかった自分は、植物を育てる授業は不思議の中で、少し面倒だと思ったこともあったのだ。でも授業を受けてみたら、植物の育て方だけを学ぶことはなかった。生命の大切さを分かるようになり、世の中の色々な物事に対する自分の価値観や考え方も少し変わるようになった。授業を通じてその授業の内容以外のことを考えるようになったことは初めてだったので、今でも受けてよかったと思っている。

また、「お弁当の日」があることは特別だった。先生と学生が自分が用意してきたお弁当を食べながら話し合う姿は見所だと感じた。ただお弁当を食べるだけでなく、お互いに色々話し合い、情が深まる大事な時間だと感じられた。

1年の留学という短い時間の半分が過ぎて、後は過ぎた時間と同じ時間が残っている。春学期はこの生活に慣れていく時期だったため、勉強が思う存分出来なかったが、秋学期は勉強中心の生活にして時間を活かしたいと思う。

協定留学生 ～速すぎる半年～

新羅大学校 余珍娥 (Yeo Jin A)

日本に来て初めては全てが不思議に見えました。周りが見慣れない漢字や日本語の文字ばかりで面白いと思いつつも戸惑いを覚えました。
‘親の手から離れて何もかも一人でやりこなさなければならぬ。’

そう思うとうまくやっていけるか不安でしたが、一緒に生活をしているルームメイトや生活に慣れるように気を遣って下さった先生方々やここで出来た沢山の優しい友達がいて心細くはありませんでした。

何しろ、今まで行きたくて仕方なかった日本です。一分一秒が大切で、私にとってはあっという間に過ぎた半年が速すぎます。

静かなチャペルで聖歌隊の合唱を聴いたり園芸の授業で採ったジャガイモとキュウリで作ったサラダが美味しくて喜んだり、エアロビック授業で踊ったり試験の勉強が難しく夜が更けるまで勉強をしたり、学校の中での思

い出がいっぱいです。ほかに、日本の友達の家に招待してもらったり、ブリクラを撮って集めたり、八王子の花火を見に行ったり、プールで泳ぐ練習をしたり、地震の揺れに驚いたり、日本の文化にも触れながらこれからも楽しみたいと思います。

秋学期からは張り切って発表が上手になるように頑張ります。また、東京のあちこちを回ってグルメ情報を探ったり観光地を見物したりするつもりです。この一年の思い出のページが素敵な色で飾られますように。



秋の新羅大学校からの留学生です。どうぞ宜しく。
(左から)ソン・ウンジン(Sung Eun-jin)、河イエラ(HA YE RA)、河ミン志(HA MINJI)、朴ジュヒ(PARK JU HEE)

協定留学生 ～タイ語留学から帰国～

国際社会学科3年 石井春佳

私は、去年の8月から1年間、タイのチェンマイにあるパヤップ大学に語学留学をしました。現地の先生方やとんとんとできる新しい友達に支えられて、当初の戸惑いなどすぐに消えたととても充実した留学になりました。

留学の中で特に印象に残ったこと、それはタイ人の友達です。タイ人の精神は常に「マイベンライ」。その言葉の意味は、「大丈夫、気にしない」という意味です。生活スタイルは日本人とは違うものの、外国人である私を温かく迎え入れてくれた心の温かさ、そして何にでも一人の「仲間」として私を受け入れてくれたことが、一番印象に残っています。

私は、タイ人の大きな特徴である「マイベンライ」の精神、と心の温かさに触れ、タイという国が大好きになりました。これからもタイに関わっていきたいと思うし、そんなタイ人のために自分ができることを探していきたいと思います。

また今回の留学で、タイと同時に自分が育ってきた環境の大切さにも気づきました。家族、友達、学校の先生方が私の成長を見守り支えてきてくれたことによって、今の私があります。自分の環境に感謝する気持ちも忘れないで、これからも成長していきたいと思っています。

<< Report

クラブ紹介 ーバスケットボール部

代表 日本語日本文化学科3年 森田佳央里

私たち恵泉バスケットボール部は、活動を始めてから約1年半の若い部です。3年生中心に21名の部員の中には、経験者もいれば、大学からバスケットを始めた初心者まで様々な人がいます。コーチがいないため、練習では経験者がアドバイスをしたり、質問しあつたりの姿勢がよく見られます。そのような向上心溢れる練習の成果を試すために、恵泉のバスケット部として社会人バスケット大会や近隣大学の合同練習や練習試合に臨みましたが、試合は互角で戦ったと思っています。

今年の夏は初めての合宿も行い、スキル向上のみならず、部員の絆を深める意味でも成功であったと思います。次の目標はさらにレベルアップするために練習に磨きをかけ、出場大会の順位を少しでも上位に持っていきけるよう、部員一丸となって頑張っていくことです。

クラブ紹介 ースキー部

代表 人間環境学科3年 宮本彩恵子

スキー部では、スキーシーズンは年4回ほど長野県のスキー場で合宿をし、シーズンオフは週に1回の活動でストレッチ、筋トレ、軽いスポーツなどでスキー合宿へ向けての基礎体力作りを行なっています。

合宿では「あいさつ」と「時間厳守」をルールとして、集団生活を学びながら各自の技術向上を目標に練習をしています。20人ほどの部ですが、規律の中にも学年を超えた交流があり、ひとりで言うよりも仲良しです。今からでも私たちと一緒にスキーを楽しみませんか？



スキー部合宿にて

<< Report

カンボジアFS報告 ～カンボジアの子どもたち～

国際社会学科2年 片岡 茜

このFSに参加して印象に残っていること、それはカンボジアの子供達のことです。ゴミ山で生計を立てている子供達が通う学校を訪問した時、子供達と遊ぶ時間がありました。「おりがみ」を言葉が通じないながらも手探りで教えていくと子供達は一生懸命見よう見まねで折り、完成すると友達同士で見せ合ったり、遊んだりしていました。さらに今度は違うものを折るから新しい紙が欲しい、とジェスチャーで一生懸命話しかけてきたり、短時間ですが、子供たちとの楽しい触れ合いの時間でした。と同時に、私はある事実に気づかされ、大きな衝撃を受けました。それは、日本では明らかに

5、6歳ぐらいいにしか見えない子供が実際には13歳14歳であったこと。彼らの年齢は私が想像した年齢よりはるかに上で、それは栄養状態が悪いことが原因でした。それ以後、私はカンボジアで子ども達に出会う度に年齢を聞いていきましたが、どこでも同じような状況でした。

子供達との触れ合いで、私は日本がいかに恵まれていて、何不自由なく生活を送れているかに気づき、この恵まれた環境と育ててくれた両親への感謝の気持ちを大事にしたいと思う一方、カンボジアなど途上国でもっと多くの子供達が最低限でも生活を送れるよう、みんなが笑顔で日々過ごせるようにするために、何ができるか考え、実行したいと思いました。カンボジアFSを通して、机の上だけの勉強ではわからないことをたくさん学び、現地で人々に触れ合い、自分のその目でみたもの、そして考えたことは私にとってこの夏最大の収穫です。また、それは今後の課題でもあります。

<< Report

イタリア語学・文化研修 ～イタリアのエスコート～

文化学科3年 根本 優子

朝はクッキーとカップッチーノ。街を歩けば、古代ローマ時代の城壁の跡や太陽にキラキラと輝く美しい噴水が私を迎えてくれる。そんな街並みにうっとりしていると、見知らぬイタリア人から「ボンジョルノ!」。イタリアは、街並みだけでなく人の心も暖かい。そして、何よりも空気すら美しい。

教会から足を三歩進めたら、目の前に広がるのは小波の音、そして海の香り。そう、広大な海が広がっている。それが、ヴェネツィアだ。リストランテに明かりが灯り、店員さんが笑顔でテーブルクロスを敷きながら、イタリアの夜がやってくることを告げる。

楽しくて幸せな夕食を済まし、夜のヴェネツィアへ向かう。私は、夜のヴェネツィアを忘れることはできないだろう。昼間は陽気なイタリア人が、綺麗なドレスを着て美しく着飾った貴婦人に変身し、そんなイタリア人をイタリアが優しくエスコートするかのよう、手を差し伸べていた。私も、イタリアにエスコートしてもらえたと思っている。充実したイタリア研修を終えて、毎日のように「イタリアに戻りたい。」と嘆いている。そして、今でもヴェネツィアでのエスコート気分が抜けないのは私だけであろうかと自問自答する日々も続いている。



イタリア語学・文化研修 ～ボローニャの朝は…～

文化学科3年 菅谷 由雅

ボローニャでの朝はざわついていた。

部屋の窓を開きそこから見えるものは、一本路地に入ったところに並ぶ市場の活気に溢れる中で、買い物や陽気に会話をしているイタリア人の姿であった。私のホームステイ先は学校から近く、Piazza Maggioreという広場に歩いて数十秒で行けてしまうという、何ともすばらしい所であった。

朝はカプチーノにクロワッサン、フルーツを優雅な音楽を聴きながらゆっくり朝食…なんてとんでもない。プラムをつかじって学校に行くことが当たり前だった。語学学校においては、言っていることは理解できても自分から話したいことが話せないというもどかしさを何度も味わい、それと同時に自分の語彙力、会話力のなさを痛感した。しかし、伝えようと努力した分相手に伝わるものだ。ボディーランゲージのすばらしさを改めて知ったのもこの

研修を通してだった。

期待は大きく外れたことが多々あったが、それは悪い意味ではなく、殆どが良いように裏切られたのだ。まさかダビデ像に惚れてしまい、ダビデのお尻や腕をいつまでも見つめていたいと思うだろうか？

研修が終わって3週間経った今でも、デジカメを見直せばついついイタリアでの出来事を鮮明に思い出してしまうのは私だけだろうか？



イタリア語学・文化研修 ～夢だったイタリアへ～

文化学科3年 大江 あゆ子

大学に入り、私が学んだ一番の事は“行動を起こさない限り何も得られない”という事だ。

私がイタリアに興味を抱いたのは中学生の頃。シエスタという昼休み、御飯はおいしく住んでいる人々は陽気という夢のような国。それがイタリアの印象だった。

大学に入り、イタリア研修があると聞き私は細々と貯金を始めた。三年生の夏になってようやく、その貯金を使うチャンスがやってきた。飛行機に乗って十数時間、夜のミラノに到着、そこから25日間のイタリア研修が始まる。

朝方の誰も居ない静かな街に響く教会の鐘、中世の色を残す小都市、教科書の中だけに見ていた絵画、ホームステイ先で窓を開けていると、路上ライブの音楽が部屋の中まで流れてくる。今でもシエスタを実行している場所は沢山あり、昼過ぎになると沢山の店が閉まっていた。

イタリアは想像していた夢の国よりもずっと歴史のある綺麗な国だった。勿論、スリが多いことや治安の問題もある。しかし注意すれば十分に防げることで、イタリアの歴史、文化、生活への好奇心を殺すのはあまりにも勿体ない。

全行程25日間はそんな長さに戸惑うかもしれない。が、少しでもイタリアに行きたいと思うなら十分に楽しめる研修になるはずだ。

2009年夏季 海外研修、フィールドスタディ一覧

	プログラム名(主な実施先)	実施期間	参加学生人数
語学研修	シドニー語学研修(シドニー大学)	8/22～9/20	9名
	イタリア語学・文化研修(ボローニャ大学)	8/21～9/14	23名
フィールドスタディ	バングラデシュFS(ダッカ)	7/29～8/8	9名
	カンボジアFS(プノンペン)	8/25～9/3	6名
	中国FS(上海、南京)	9/3～9/12	4名
	オーストラリアFS(ブリスベン、ケイプ)	9/3～9/14	8名
長期FS	タイ長期FS(チェンマイ)	8/28～2010年1月	7名

インターンシップの実施

「インターンシップ」は、実際の就業体験をすることで、適職の選択力や評価判断の能力を養うこと、また実社会で働くために必要な実務能力への理解を高め、マナーを身につけることを目的とした科目です。

恵泉女学園大学はキャリアデザイン科目として、1年から履修できる「簿記講座」「TOEIC入門講座」「TOEIC講座」「TOEFL英語」、2年次から履修の「企業実践講座」「ビジネスマナー講座」、その他「プレゼンテーション技法」「Webデザイン」などの情報関連科目も設置しています。

3年次になると「インターンシップ入門」で基本的な知識を学び、この単位を取得していることなどを条件にインターンシップ実習に参加し、単位を取得することができます。

インターンシップへの参加は、大学が紹介する企業・官庁・団体等に応募する方法や、インターネット上の募集サイトを利用する方法があります。就職進路室で参加や応募の相談を行い、安心できる実習先へ夏期休暇を利用して参加します。(就職進路室)

最近のインターンシップ実施先

日本航空／全日本空輸／バンダイ／再春館製菓所／ANAラウンジ／ヒルトン東京／品川プリンスホテル／ホテルニューオータニ／ホテル日航東京／小田急トラベル／住信ビジネスサービス／厚生年金スポーツセンター／ウェルサンピア多摩／日本オーケストラ連盟／花菱／農林水産省／東京都庁／群馬県庁／JICA／多摩ニュータウン環境組合／港南つくしんぼ保育園

～インターンシップに参加して思うこと(2009年度実習)～

人間環境学科3年 木村 綾花

以前からサービス業に興味があり、社会人としての仕事を体験してみたいと思っていましたが、今夏、「グランドホテル湘南」でインターンシップを行なうという機会を得ることができました。期間は4日間で、フロント、レストラン、客室業務をさせて頂きました。フロントでの私の仕事は、お客様への挨拶と、玄関の扉を開けることでしたが、お客様に「ありがとう」といって頂くうちに、「笑顔」はお客様の気持ちを和らげ、歓迎の気持ちを表すための大切なツールであることに改めて気がつきました。レストランでの仕事は朝の掃除、お客様のご案内、お絞りの水サービスなどです。落ち着いた空間で、お客様が心地よく食事を楽しめるように、お絞りの置き方にも気をつけ、タイミングよく置いていくような気配りを心がけました。客室業務は清掃、ベッドメイクでしたが、一部屋約30分で部屋を完璧に整えることは、まさに時間との戦いです。また、ベッドメイクは体全体を使う重労働だということにも気がつきました。埃一つ、水滴一滴残さない徹底した仕事ぶりからは、プロ意識を感じました。こうしたホテルの人々のお陰で、初めてお客様は快適なお部屋でくつろぐことができるのだと実感しました。

すべての業務を体験してみて共通していたことは、どんな時でも「お客様第一」であることでした。終始、慣れないパンプスで立ちっぱなしだったため足の痛みとの戦いでしたが、気配り、心配りの模範を見せて頂き、私もお客様に満足して頂けるようなサービスのできる社会人として働きたいという意思が、より一層強くなったインターンシップ体験でした。

収穫感謝礼拝

収穫感謝礼拝の起源は17世紀に遡ります。英国国教会に圧迫された清教徒たち（ピューリタン）が海を渡ってアメリカ大陸に上陸。しかし、非常にやせた土地と厳しい寒さにより翌年の春までには約半数の人々が死んでしまうという過酷な日々を送りました。そのような中、疲れ果てた姿を見かねた先住民達が彼らに作物の種を分け、播き方、育て方を教えてくれました。そして豊かな収穫を与えられた秋、助けてくれた先住民の友人達も招き、教会に集まって感謝の礼拝をささげ、共に恵みを分かち合ったのが始まりとされています。

そのことを忘れないようにと毎年礼拝を守っているのです。

恵泉においても、教育農場で学生たちが育て、豊かに実った収穫物を前に神への感謝を表し、共に恵みを分かち合っています。多くの仲間と共に分かち合うこのひとは喜びが何倍にもなるような思いがいたします。

収穫感謝礼拝を通し、聖書のメッセージから、私たちは現代の厳しい生活を強いられた人々、心に痛みを抱えている人々と恵みを分かち合うことの大切さを体験し、学んでいます。

(キリスト教センター 宇野緑)

収穫感謝礼拝 11月19日(木) 12:20～ 前庭にて

今年もJICAからの研修生を交えて、収穫感謝礼拝を行ないます。学生宗教部シャロンが企画中です。



昨年の収穫感謝礼拝

恵泉トピックス

チャペルアワー

チャペルアワーは月曜から金曜まで(除く木曜日)、チャペルで行なわれ、教職員、学生が聖書に基づいたメッセージを語ります。

チャペルアワーでは、先生からいつもの授業では語られないようなことや、同じゼミの学生の心に触れるような体験談、話しをしたことも無かった職員と思わぬ共通点を知るなど、忙しい日常の中において、心を静め、自分と向き合いながら、ともに耳を傾け、聖書のメッセージに触れることのできる時間です。

P3で夏期の海外研修参加報告を掲載しましたが、その他にも夏期プログラムに参加した9名の学生が、10月第1週のチャペルアワーでメッセージを担当し、研修先での感動や、体験から得たもの、学んだこと、さらにそこから生まれた疑問やこれからの抱負などを語りました。そのメッセージは、体験の中にある学びを学生同士が共有し合い、ともに学び、ともに感謝することを伝えるものでした。



チャペルアワー(10:30~10:55)

新型インフルエンザへの対応について

これから冬にかけて感染者が増加する可能性があります。また、従来の季節性インフルエンザ感染防止もさらなる注意が必要です。学生・教職員の皆さんは、引き続き感染予防に努めて下さい。

発熱・咳などのインフルエンザの感染が疑われる症状がある場合は、感染拡大の防止のため、必ず受診して下さい。

【在学生がインフルエンザと診断されたら】

- 1、インフルエンザと診断されたら、大学教務課へ電話で連絡して下さい。
- 2、インフルエンザと診断され、授業及びそれに準ずる行事を欠席する場合は、必ず事前に大学へ連絡して下さい。

詳細は教務課、健康管理室へ問合せ下さい。

(健康管理室 042-376-8599、 教務課 042-376-8214)

■ 編集後記

「Circus」「Memory」「COLORFUL」何でしょう?「かえる」「千紫万紅」「冒険譚」さらに「青春エスプレッソ」「Girls be ambitious!」なんとなくわかってきました。各大学の大学祭テーマです。今年の多摩フェスティバルテーマは「ECOロジーすばらし〜Yes fall in eco♪〜」学生が日頃から関心のあるテーマを選んだのだと思いますが、当日ゆっくり展示や催し物を見る時間がないのが残念です。



恵泉女学園大学

〒206-8586 東京都多摩市南野2-10-1

TEL: 042-376-8211 FAX: 042-376-8218

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp>

mobile <http://m.keisen.jp>



秋の花 ケイトウ(鶏頭)

* Celosia argentea

茎頂が帯化変形して、雄鶏のとさか状の花冠をつけるところから名づけられました。手にとってそれだけ眺めていると、今にも動きだしそうな、ちょっと無気味な感じがします。英名の「cocks-comb」もやはり「鶏のとさか」を意味しており、イメージは万国共通なのかもしれません。キャンパスの花壇の中では、抜けるような秋空の青と鶏頭の真紅が見事にマッチして、秋の一風景として収まります。正岡子規が詠んだ句に『鶏頭の十四五本もありぬべし』という句があります。長く患い、床を離れることのできなかった子規の庭には折々の花、草木が植えられており、彼の心を慰めていたといえます。